5　社会化を目指す指導についての考察

「大山林間学校」の学習は成功したと思う。生徒たちはその成果である紀行文集「大山のおもいで」を手にして、大山は楽しかったなあと満足感がいっぱいであった。この学習のなかで、いくつかの社会のしくみや働きを理解し、そのきまりや習慣を身につけ、守りながら意欲的に実際的な生活を体験し、期待以上の充実した学習活動であったと思う。

また、この学習が１１月の学習発表会の単元に、意欲の面でも学習内容の面でも発展的に引きつがれ、一層充実した学習展開にすることができた。

成功のポイントは行事単元のため生徒に興味や関心があったとはいえ、何といっても生徒たちに学習意欲をもたせながら学習展開をすすめ、積極的に学習に取り組ませることができたことだ。生徒の希望を精いっぱい取り上げながら、そのなかに目指す社会化の内容をうまく盛り込む。とくに自分の希望がなかなか出てこない生徒に、１対１の個別指導のなかで希望を引き出し、それに自分の問題として取り組ませる。こうして、ひとりひとりに活動の場を与え、参加させ表現させて成就感を持たせることができた。

第二の点は生徒の学習に対して家庭から、それぞれに協力や援助が得られたことである。私たちはどのように家庭学習の課題を出し、家庭でどう学習意欲をあたゝめてこれるか、その対応に苦心した。家庭連絡、課題帳、お手紙、宿題、家庭作業など、時には家庭で負担に思われたこともあったかも知れない。だが、この家庭でのあたためが次時の生徒活動を活発にしたことは否定できない事実であった。

第三点は、７名の教師が学級担任、教科の枠を超えて、学習や生徒の指導についての共通理解ができ、チームワークのとれた指導体制がとれたことだ。ひとりの生徒を７人の教師が指導していくのである。手を引っぱり、足をひっぱり、生徒をばらばらにしてしまわないよう、「７人がスクラム組んで、子どもの後押しがしてやれる」そんな教師集団になれたことが、この学習を成功させた原因であると思う。

最初にも述べたように、この学習指導の方法が成功したのも行事単元であったためかも知れない。私たちに、もっと他の社会化を目指した内容の単元でもこの方法論を展開して実践できるものか、生徒個々の評価をもあわせ考えながら再び実践を重ねてみたいものである。